

# 3.川とのつきあい方

## 川のおそろしさから身を守るために

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



水が増え、はげしく流れる札内川(札内橋)。人の体はもちろん、人の頭くらいの石でも簡単に流してしまう。

川のおそろしさには、大きく分けて2つあります。一つが洪水こうずいの時のおそろしさ。もう一つがふだんふだんの時のおそろしさです。

洪水のおそろしさは、何といたっても水の量です。

水の量ひが増えた川では、物を流す力が信じられないほど強くなります。また、畑や街、山に降った雨が川に流れこむことができず、周りにたまっていきます。

洪水には、家や畑、人の命をうばう力があるのです。

では、ふだんの川なら安全かといえ、決してそうではありません。

川の水は冷たく、深さや流れの速さが場所によって大きく変わります。泳ぎに自信がある人でも、おぼれてしまうことがあるのです。

### 堤防ていぼうの近くは危険地帯きけんちたい

堤防ていぼうは、もともと河川敷かせんしきと同じの高さの平地につくられます。堤防ていぼうの近くていぼうというのは、堤防ていぼうがなければ川の水があふれてくるかも知れない場所なのです（ p211）。整備される前には、川が流れていたかも知れません（ p189）。

こうした場所は、まわりから水が集まる場所なので、水がたまりやすい場所です。また、堤防ていぼうはこわれることもあります。今でも、洪水こうずいにおそわれる危険性きけんせいがあるのです。

堤防ていぼうは、暮らしを守ってくれています。しかし、堤防ていぼうの近くすいがいは水害すいがいにあいやすい場所だということを、忘れてはいけません。



洪水こうずいの時の利別川堤防としべつがわから見たところ。利別川としべつがわの水が増えふ（右側）、流れ出せなくなった水がたまっているふ（左側）。

### 「浸水想定区域図しんすいそうてい」や「ハザードマップ」をしてみよう

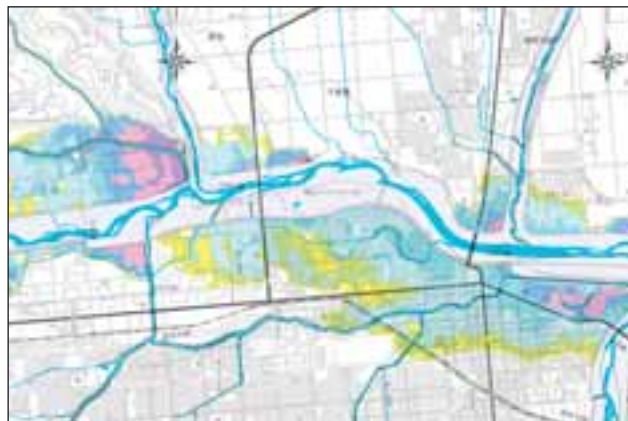
帯広開発建設部おびひろかいはつけんせつぶでは、もし川があふれた場合、どのように水が広がるかをお知らせしています（十勝川・利別川・札内川・音更川）。ホームページでも見られるので見てみましょう。

（河川の防災のページ）

<http://www.ob.hkd.mlit.go.jp/hp/bousai/kasen.htm>

また、各市町村役場こうずいでは、洪水こうずいの時どうなるかを表した「洪水ハザードマップ」を見たりもらったりすることができます。

洪水こうずいになるとどうなるのかを確かめておき、洪水こうずいの時どうするかを、学校や家庭で話し合っておきましょう。



帯広開発建設部おびひろかいはつけんせつぶのホームページから見る事ができる、浸水想定区域図しんすいそうてい。

## 水をなめてはいけない

人は水の中では生きられません。ひざより浅いところであっても、転んでパニックを起こしてしまえば、おぼれることがあるのです。

また、水には浮力（ものを浮かそうとする力）があります。そのうえ、川には流れがあります。ちょっとバランスをくずしただけでも、転んでしまいます。

コンクリートで護岸（ごがん p212）してあると、岸が急ですべりやすくなっていることがあります。そんなつもりはなくても、一気に深いところまで入りこんでしまい、しかも岸に上がれない場合があるのです。

さらに、川はプールとはちがって、とつぜん流れや水温が変わるところがあります。深みには冷たい水がたまっていて、体の調子をくるわせてしまうかも知れません。



楽しいはずの時間が、とつぜん、恐怖の時となる。（写真の人たちは無事でした）



カヌー体験の前に、ライフジャケットをつけて水に流される練習をしているところ。野外授業のひとつ（札内川）。

## 自分で自分を守る ... 自己責任

川は、どんなにおだやかに見えたとしても、自然なのです。公園や舗装された道路ではないのです。

自然の中では、「自分の身は自分で守る」というルールがあります。川に入る時も、「これから、死ぬかも知れない場所に入るのだ」と気を引きしめて下さい。

身を守るためには、川のことを知らなければなりません。

川の危険と身の守り方を知っている人に、川のことをきちんと教えてもらいましょう。（エールセンター p239）

## 四十年過ぎても忘れられない悲しみ ... 水難事故の記憶

かつての十勝川（今の旧利別川～礼文内川）近くの北栄（豊頃町）に暮らしていた小笠原信一さんによる、水難事故の記憶です。

「学校などにもプールのない時代ですから、水泳というときまって川泳ぎです。浅いと思って泳げば急に三メートルも深くなったり、夏浅いところが温泉になっているが、深い部分は冷たいものです。心臓マヒの原因にもなります。

昭和三十年頃でしょうか、礼文内小学校で先生が生徒を引率して水泳に来て、ロープを張りこの中で泳ぐよう注意していたところ、いつも水泳には自信のある子供が制限区域を越えて水難事故にあい、学校側も責任上大変でしたが、それ以後も三件ほどありました。

川は子供たちにとって、楽しい遊び場でもありました。しかし、危険がいつでもつきまわっていました。（豊頃町もやま話作品集 あかだも『旧十勝川の水の流れに想いをよせて』より）」

自分のお子さんを川で亡くされた、育素多（豊頃町）の村上五作さんは、次のように書いています。

「私宅でも、長男を川で亡くしました。四十年過ぎた今でも、あの時の悲しみは、忘れる事ができません。思い出したくない出来ごとですが、いつも思い出します。このようなことは、私の覚えて居るだけで十指にも余る件数で、これにつながる父母の嘆きが聞えてくるようです。（豊頃町もやま話作品集 あかだも『曲がっていた川』より）」

（漢字・送りがななどは原文のまま）

1 豊頃町もやま話作品集 あかだも（とよころもやまばなしさくひんしゅう あかだも）  
豊頃町豊寿大学文学部（ほうじゅだいがくぶんがく）編集

2 十指にも余る（じっしにもあまる）：10より多い、ということ。十指とは両手の10本の指のこと。指おり数えることから、10本の指でも数え切れない、ということ。